

# 福井県立病院外科専門研修プログラム

## 1. 福井県立病院外科専門研修プログラムについて

福井県立病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点である。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得し、患者から信頼される外科専門医になること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 患者に信頼される医療を提供でき、患者への責任を果たせるよう、専攻医が外科専門医としての知識・技能・態度と高い倫理性を備えること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

## 2. 研修プログラムの施設群

専門研修施設群を構成する連携施設については、福井県の地域医療に従事する必要がある専攻医の立場を考慮して、また、地域医療（過疎地域も含む）の研修を強化するため、福井県内の複数の医療機関に連携施設に加わって頂きました。

本専門研修施設群では18名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

### 専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科,2:心臓血管外科,3:呼吸器外科,4:小児外科,5:乳腺内分泌外科,6:その他(救急含む)	統括責任者名
福井県立病院	福井県	1,2,3,4,5,6	宮永 太門

### 専門研修連携施設

No.				連携施設担当者名
1	福井県済生会病院	福井県	1,3,5	宗本 義則
2	福井勝山総合病院	福井県	1,5,6	田口 誠一
3	公立丹南病院	福井県	1,4,5,6	石田 誠
4	金沢大学附属病院	石川県	1,2,3,4,5,6	木村 圭一
5	公立小浜病院	福井県	1,2,3,4,5,6	菅野 元喜

### 3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の3年間NCD登録数は3,651例で、専門研修指導医は18名です。本年度の募集専攻医数は2名です。

### 4. 外科専門研修について

1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。

3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。また、基幹施設単独または連携施設のみで3年間の研修を行うことはありません。

専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアル-経験目標2-を参照）

初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。

#### 2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。

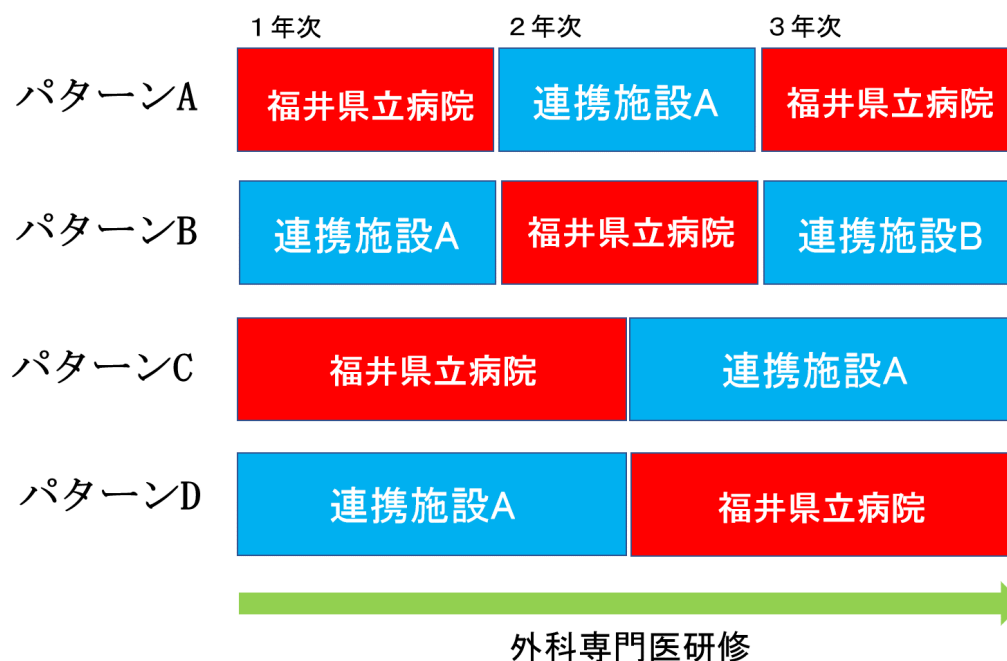
専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、サブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進めるよう、配慮致します。

(例)

下図に福井県立病院外科研修プログラムのパターンを例示します。考慮すべき専攻医の事情がある場合は研修パターンを変更することもあります。



福井県立病院外科研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

福井県立病院外科研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。

#### ・専門研修1年目

福井県立病院または福井県済生会病院のいずれかに所属して研修を開始します。一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌で、1年間の研修での経験症例数150例以上を目指します。

#### ・専門研修2年目

福井県立病院、福井県済生会病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、または金沢大学附属病院のいずれかに所属し研修を行います。一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌で2年間の研修での経験症例数300例以上を目指します。

#### ・専門研修3年目

福井県立病院、福井県済生会病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、公立小浜病院また

は金沢大学附属病院のいずれかに所属し研修を行います。不足症例を考慮しながら、3年間の研修での術者120例以上となるよう、各領域をローテートします。

(サブスペシャリティ領域などの専門医連動コース)

カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、福井県立病院または連携施設でサブスペシャリティ領域（消化器外科，心臓・血管外科，呼吸器外科，小児外科）または外科関連領域（乳腺など）の専門研修を開始できるよう配慮します。

研修の週間計画（抜粋）

基幹施設（福井県立病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00 - 8:30 キンサーボード、術前カンファレンス	○		○		○		
8:00 - 8:30 (必要時) 問題症例カンファレンス		○					
8:00 - 8:30 抄読会				○			
8:30-12:00 午前外来、病棟業務	○	○	○	○	○		
13:00 - 16:00 午後外来、病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00 - 手術	○	○	○	○	○		
13:30 - 15:00 科長回診	○	○					
17:00 - 17:30 外科死亡症例、緊急手術症例検討会	○						
17:00 -18:00 消化器カンファレンス					○		
17:30 -18:30 (隔週) 上部消化管・放射線治療カンファレンス			○				
18:00-19:00 (隔週) 肝胆膵カンファレンス			○				
17:00 - 18:00 心血管カンファレンス					○		
17:30 - 18:30 (第1・3木曜) 呼吸器カンファレンス				○			

連携施設（福井県済生会病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00 - 8:40 外科術前カンファレンス	○						
8:00 - 8:40 外科定例カンファレンス			○				
8:20 - 9:30 病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00 - 手術	○	○	○	○	○		
8:15 - 8:45 外科総回診					○		
8:00 - 8:30 外科勉強会			○				
18:00 - 19:00 消化器カンファレンス／腫瘍カンファレンス	○						
7:30 - 8:00 肝胆膵臨床病理カンファレンス		○					

連携施設（福井勝山総合病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00 病棟回診、病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00-12:00 外来 内視鏡検査	○	○	○	○	○		
12:30-13:00 外科・放射線科合同カンファレンス				○			
13:30-14:00 病棟カンファレンス		○					
13:30- 手術	○		○		○		
13:30- 大腸内視鏡検査		○		○			
17:15-18:15 消化器内科・外科合同カンファレンス(月1回)		○					

連携施設（丹南病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 術前カンファレンス		○					
8:00-8:30 術後カンファレンス					○		
8:00-8:45 総回診	○			○			
8:45-12:00 午前外来	○	○	○	○	○	○	
13:00- 手術	○		○	○	○		
13:00- 内視鏡検査, 処置		○			○		
13:00-15:00 褥瘡, NST 回診		○					
15:00- 院内感染回診				○			
15:00- 緩和ケア回診					○		
16:30- 内視鏡カンファレンス		○					

連携施設（金沢大学附属病院）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00 - 8:30 グループ カンファレンス、グループ 回診	○		○		○		
8:00 - 8:15 全体カンファレンス		○		○			
8:15 - 9:00 術前・術後症例検討会		○					
9:00 - 10:00 総回診（火）、グループ 回診（木）		○		○			
8:15 - 9:00 抄読会、リサーチカンファレンス				○			
10:00 - 12:00 午前外来		○		○			
9:00 - 手術	○		○		○		
8:00 - 17:00 病棟業務	○	○	○	○	○		

8:30 - 9:00 病理、放射線科合同カンファレンス (呼吸器外科)			○				
17:30 - 内分泌合同カンファレンス (内分泌・総合外科) (月 1 回)			○				
19:00 - ハートセンターカンファレンス (心臓血管外科) (月 2 回)		○					

連携施設 (公立小浜病院)

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-11:00 病棟業務	○	○	○	○	○		
8:30-12:30 午前外来	○	○	○	○	○		
9:30- 手術	○	○	○	○	○		
9:00- 総回診				○			
9:30- 病棟回診	○	○	○		○	○	○
13:00-17:15 内視鏡処置		○					
17:00- 乳腺カンファレンス				○			
17:00- 勉強会				○			
17:30- 外科カンファレンス				○			
16:00- 病理合同カンファレンス				○			
17:00- 消化器合同カンファレンス	○						
18:00- ビデオカンファレンス	○						

5. 専攻医の到達目標 (習得すべき知識・技能・態度など)

専攻医研修マニュアルの到達目標 1 (専門知識)、到達目標 2 (専門技能)、到達目標 3 (学問的姿勢)、到達目標 4 (倫理性、社会性など) を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 (専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照)

基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

消化器カンファレンス：消化器内科、外科医、病理医が参加して、消化管疾患の症例の画像を読影し、診断能力の向上を図ります。診断や治療方針決定に悩む症例に関するカンファレンスも行います。

上部消化管・放射線治療カンファレンス：外科医、消化器内科医、放射線治療医、病理医

が参加して、上部消化管領域の疾患の診断ならびに治療方針について議論・決定を行います。さらに、手術後や治療経過に対して術後病理組織学的考察を行い、術前の診断・治療方針の評価を行います。

肝胆膵カンファレンス：消化器内科医、外科医、病理医、放射線科医、陽子線治療医が参加して、肝胆膵領域の疾患の診断ならびに治療方針の決定を行います。さらに、手術後の切除標本に対して病理組織学的考察を行い、術前の診断・治療方針の評価を行います。

カンサーボード：消化器系、呼吸器系、乳腺等の悪性疾患症例について、外科医、消化器内科医、病理医などの関連診療科の医師、さらに、看護スタッフなどが参加して、治療方針の決定・確認を行います。

基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を計画し、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。

各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。

教育DVDを用いて、あるいは、大動物を用いて手術手技を学ぶ機会を設けます。

日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。

標準的医療および今後期待される先進的医療

医療倫理、医療安全、院内感染対策

## 7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

日本外科学会定期学術集会に1回以上参加

指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

## 8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

## 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

## 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。

医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。

## 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

## 4) チーム医療の一員として行動すること

チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。

的確なコンサルテーションを実践します。

他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

## 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

## 6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。

医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。

診断書、証明書が記載できます。

## 9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

### 1) 施設群による研修

本研修プログラムでは福井県立病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。連携施設としての大学病院での研修も稀な疾患や治療困難例の経験に有利です。福井県立病院外科研修プログラムにおける研修パターン（施設群における研修の順序、期間等）については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、福井県立病院外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。どの研修パターンで研修を受けても、最終的に、指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

### 2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）



地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

本研修プログラムでは、奥越医療圏、丹南医療圏の各医療圏内の連携施設で以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修を強化しています。

地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。

消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

#### 10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

#### 11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である福井県立病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。福井県立病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、事務局代表者、外科の5つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

#### 12. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。専攻医は研修を行う研修施設群に属する各施設を循環するため、給与等は研修場所となる施設で受けることとなります。

#### 13. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門

医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。この際、看護師などのメディカルスタッフの意見も参考にして評価を行います。

#### 1 4. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

#### 1 5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について 研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

福井県立病院外科にて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

##### ●専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

##### ●指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

##### ●専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

##### ●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

#### 1 6. 専攻医の採用と修了

##### 採用方法

福井県立病院外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年6月以降に説明会等を行い、外科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『福井県立病院外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は

- (1) 福井県立病院のwebsite (<http://fph.pref.fukui.lg.jp>)よりダウンロード
- (2) 電話で問い合わせ(0776-54-5151)
- (3) e-mailで問い合わせ ([hp-kensyu@pref.fukui.lg.jp](mailto:hp-kensyu@pref.fukui.lg.jp))

のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。その後の選考については、直接、電話で問い合わせください

い。応募者および選考結果については福井県立病院外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

#### 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・専攻医の履歴書
- ・専攻医の初期研修修了証

#### 修了要件

専攻医研修マニュアル参照

(平成30年5月1日作成 第1版)

(平成31年4月1日作成 第2版)